人権のひろば

Vol.271

「人権のひろば」に対するご意見、ご感想は秘書広報課または、人権室までお寄せください。

これってパワハラ？指導？

身近な問題「ハラスメント」

「ハラスメント」。最近よく聞く言葉の一つではありませんか。ハラスメントとは、簡単に言うと、受け手を不快にさせたり、人間としての尊厳を傷つけたりする行為のことです。代表的なものとして、「セクシュアル・ハラスメント」（セクハラ）や「パワー・ハラスメント」（パワハラ）などが挙げられます。

厚生労働省が令和2年度に実施した「職場のハラスメントに関する実態調査」によると、過去3年間にパワハラを受けた人の割合は全体の31・4パーセント、セクハラは10・2パーセントとなっています。

複雑化するハラスメント

ハラスメントが注目されるようになり、その種類は年々増えています。中には「他人の言動に対し、自分が不快感や嫌悪感を覚えたときに過剰な反応をし、ハラスメントだと主張すること」という意味の、「ハラスメント・ハラスメント」（ハラハラ）という言葉も生まれるなど、状況は複雑化しています。

先ほどの調査の中で「ハラスメントの予防・解決のための取り組みを進める上での課題は何か」という質問があり、最も多かった回答は「ハラスメントかどうかの判断が難しい」でした。このような結果になる原因の一つとして、複雑化するハラスメントに対して社会全体の理解が追い付いていないことが考えられます。

これってパワハラ？指導？

実は、「受け手が不快に感じたら、全てハラスメント！」というわけではなく、客観的にみて、必要かつ相当な範囲で行われる適正な行為については該当しない場合があります。

例えば、パワハラは、業務の適正な範囲で行われた場合には該当しません。一方、業務上正しいことを命令し、指導する場合であっても、感情的、高圧的、攻撃的に行われた場合など、社会通念上許容される限度を超える場合には、パワハラに該当する可能性があります。（表参照）

ハラスメントとの正しい向き合い方

ハラスメント防止は、属するコミュニティー内におけるコミュニケーションを円滑に進め、良好な人間関係を維持することにつながります。ハラスメントと上手に向き合っていくためには、一人ひとりが相手を尊重し合うことに加え、正しい知識を身に付けることも重要です。

よりよい社会生活のために、今一度ハラスメントへの理解を深めてみてはいかがでしょうか。

パワハラと指導の違い

	パワハラ	指導
目的	•相手を馬鹿（ばか）にする、排除する •自分の目的の達成（自分の思いどおりにしたい）	相手の成長を促す
業務上の必要性	•業務上の必要性がない（個人生活、人格を否定する） •業務上の必要性があっても不適切な内容や量	仕事上必要性がある、または健全な職場環境を維持するために必要なこと
態度	威圧的、攻撃的、否定的、批判的	肯定的、受容的、見守る、自然体
タイミング	•過去のことを繰り返す •相手の状況や立場を考えずに	•タイムリーにその場で •受け入れ準備ができているときに
誰の利益か	組織や自分の利益優先（自分の気持ちや都合が中心）	組織にも相手にも利益が得られる
自分の感情	いらいら、怒り、嘲笑、冷徹、不安、嫌悪感	好意、穏やか、きりっとした
結果	•部下が萎縮する •職場がぎすぎすする •退職者が多くなる	•部下が責任を持って発言、行動する •職場に活気がある

パワー・ハラスメント防止ハンドブック（人事院）より

【参考】

●厚生労働省ホームページ　「職場のハラスメントに関する実態調査について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000165756.html

●人事院
「お互いが働きやすい職場にするために　パワー・ハラスメント防止ハンドブック」
https://www.jinji.go.jp/sekuhara/handbook.pdf

9月10日

未来にむかって、思いを英語にのせて

高校生英語弁論大会（キラリエホール）

手ぶりや表情で表現▶

高校生が未来に向けた思いやメッセージを英語で表現する高校生英語弁論大会。今年は15人が参加しました。鍛錬された約5分間のスピーチといきいきした表情は、観客だけでなく、審査員も感動を覚えるほどで、会場は大きな拍手と感動に包まれました。

▲見事入賞した5人の高校生

PHOTO NEWS フォトニュース

市ホームページにも掲載中！

10月10日

歴史的価値と今後の活用を語る

国史跡指定・三好長慶生誕500年記念シンポジウム（サーティホール）

歴史的価値が認められ国史跡に指定された「飯盛城跡」。さらに今年は三好長慶生誕500年を迎えました。市職員による調査報告や、研究者による講演。パネルディスカッションでは活発な意見交換が行われ非常に盛り上がりました。

▲多くの人が集まった会場

取材：市民レポーター　竹重稔也

9月23日

出来栄えに大満足

親子で三好長慶　兜（かぶと）づくり工作（中央図書館）

兜づくりは紐（ひも）を通す工程が多く、根気のいる作業ですが、子どもたちは、保護者に手伝ってもらいながら頑張っていました。苦労して作った分、完成した兜をかぶると、誇らしげな表情を浮かべた子どもたちでした。

▲ザルなど身近なものが材料に

▲色使いに個性が光ります

親子で仲良く▶

▲記念撮影！みんなカッコイイ！

取材：市民レポーター　河村共之、竹重稔也